

4. 問題点とその原因・要因の考察（海域区分毎）

本節における「問題点とその原因・要因の考察」の構成イメージを図 4.4.1 に示す。4章 2. 海域区分に示した海域区分毎に、前節で示した問題点の確認とその原因・要因の考察を整理するとの基本方針に従って、まず、有明海のA1海域～A7海域、八代海のY1海域～Y5海域の個別海域毎に整理する。「ベントスの変化」及び「有用二枚貝の減少」については、基本的に移動能力が小さいため特定の海域特性の影響を受けやすいと考えられるので、有明海又は八代海の個別海域毎に考察した（4章 4. (1)～(7)、(10)～(14)）。

一方、有明海、八代海等が抱える諸問題には、個別海域毎に分析・評価しては事象を捉えることができないもの、空間として海域全体で捉えるべきものがある。これらに該当する「ノリ養殖の問題」及び「魚類等の変化（魚類養殖業の問題を含む。）」に関する原因・要因の考察や、有明海における「有用二枚貝の減少」の原因・要因のうちエイ類による食害や浮遊幼生の減少等に関する考察については、有明海全体又は八代海全体でまとめて行った（4章 4. (8)、(9)、(15)）。

橘湾又は熊本県天草市牛深町周辺の海面については、隣接する有明海又は八代海で発生した赤潮が流入して養殖魚に被害が生じることが問題となっているため、それぞれ有明海全体又は八代海全体の中で整理した（4章 4. (9)、(15)）。

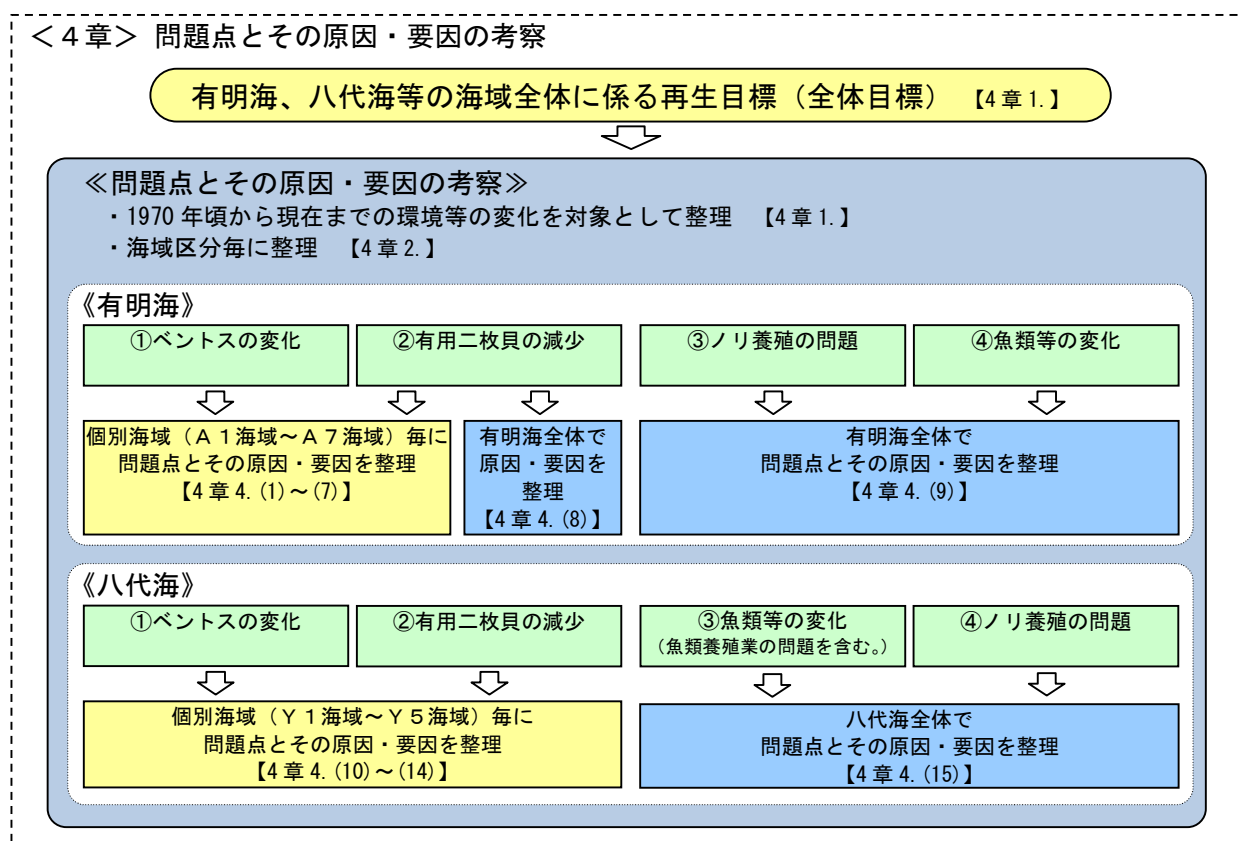


図 4.4.1 4章の構成イメージ

